

2008年7月1日

印旛普及だより

第13号

〒285-0026 佐倉市鐺木仲田町 8-1 TEL:043-483-1130 FAX:043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>
発行：印旛農林振興センター振興普及部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

里山を守ろう！

一 里山フェスティバル

5月31日(土) 八街市の農産物直売所「スマイルやちまた」に隣接した里山で、第5回里山フェスティバルが開催されました。

この里山フェスティバルは、里山を保全し、整備・活用することで里山を次の世代に引き継ぐことを目的に、里山条例の施行を機に行われているものです。当日は、朝から雨の降りしきる中約50名の参加があり、森林に侵入した竹の伐採と近くの畑で育てたジャガイモの収穫体験がなされました。

日ごろ体験することのない竹の伐採やジャガイモの収穫に「竹はなかなか倒れなかった。」「大きなジャガイモにびっくりした。」などの感想が寄せられました。

参加者は十分に里山体験を満喫された模様でした。



竹の伐採

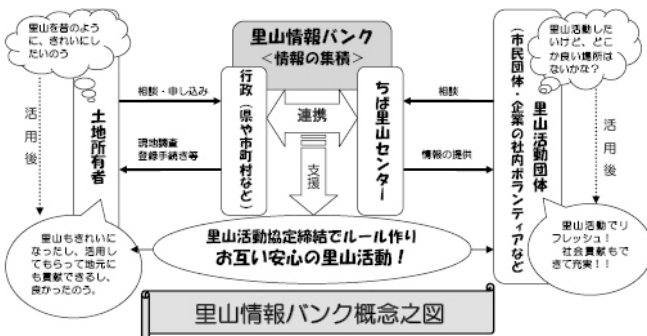
二 里山情報バンクと里山協定

県では「里山をもっているが手入れができない。」「誰か里山の整備をしてくれないだろうか。」等、土地所有者からの森林整備の依頼を「里山情報バンク」に登録し、里山活動を行おうとする団体等に提供しております。

この情報を含めて、この里山条例に基づく「里山活動協定」は、平成20年3月末までに、県下87カ所、約126ヘクタールの地域が認定されています。

三 美しいちばの森林づくりタウンミーティング

今年度から、県民の皆さんと千葉の森林づくりを進めるため、「美しい森林づくりタウンミーティング」を各地で開催します。タウンミーティングの日時・会場等は、今後県のホームページなどでお知らせしますので、皆さんのご参加をお待ちしています。すべての県民が積極的に里山保全、整備及び活用に取り組み、かけがえのない豊かな里山を未来に引き継ぎましょう。



消費者に選ばれる野菜を作ろう

○中国産冷凍ギョウザ事件以降、安心・安全な国内農産物のニーズは高まっており、この頃は、生産者から「エコファーマー」や「ちばエコ」など農薬使用に配慮のある農産物生産について、農林振興センターへの問い合わせが多くなっています。

また、「ちばエコ農産物」を取扱う「ちばエコ農産物販売協力店」は、平成20年5月26日現在357店舗と年々増えておりあります。

○「ちばエコ農産物」の認証を受けるには栽培開始前に「栽培計画書」の承認を得て、また収穫前に現地確認・審査を受ける必要があります。

ちばエコ栽培ポイント
(1) トンネル春どりにんじん

①「ちばエコ農産物」栽培基準
トンネル春どりにんじん栽培の化学合成農薬及び化学肥料

(上限)は、表1のとおりです。

②病害虫等や雑草の発生の少ないほ場の選択

前年にセンチウヤしみ症が発生したところでは連作しない。やむをえず、前年にセンチウの被害のあったほ場で作付けをする場合は、土壌消毒を行います。

③土づくり

完熟たい肥の施用又は、ソルゴーなどの緑肥のすき込みによる土づくりを行います。なお、たい肥は、は種直前の施用は避け、前作までに施します。

④施肥

肥料は、有機化成・有機質配合肥料を使用します。

⑤病害虫防除

D—D油剤やデイトラペックス油剤で、土壌消毒を行う場合は、地温を確保して十分な効果を上げるためにも、遅くとも11月上旬までに行います。また、ガス抜きは2回以上行います。

黒葉枯病の

防除は、Zボルドーを予防的に散布します。また、ハスモンヨトウの防除には畑をよく見回って発生初期にBT剤(ゼンターリ顆粒水

和剤)を散布します。

(2) さつまいも

さつまいもでは、次のような工夫をすることで、ちばエコ栽培に挑戦しましょう。

①ネコブセンチウ対策

さつまいもの前作に、ギニアグラス等のネコブセンチウ対策抗植物を作付けすることで、D—D油剤等のセンチウ防除用薬剤の使用回数を減らせます。

②除草対策

マルチ用大麦「百万石」、「まいらず」等を、定植時に畦間

表1 化学合成農薬及び化学肥料の使用基準並びに申請期限について

作物名	作型	化学合成農薬使用回数		化学肥料使用量(窒素成分量K g/10a)	申請期限
			苗購入の場合		
にんじん	トンネル春どり	6回		10	平成20年10月10日
さつまいも	トンネル普通	5回	5回	1.5	平成21年1月10日
		5回	5回	1.5	
		6回	6回	1.5	



さつまいもの畦間で育つマルチ用大

で、抑草効果を期待でき、除草剤を使用せずに栽培できます。なお、これら的大麦は、夏場に枯れるので、収穫作業に支障はありません。

③食葉害虫対策

さつまいも栽培では8月以降、ナカジロシタバとハスモンヨトウによる食害が問題となります。にんじん栽培と同様に、若齢幼虫時にBT剤で防除することで、その後の薬剤散布回数を減らすことが可能です。

なお、Zボルドー及びBT剤など『化学合成農薬に含めない農薬』を上手に活用します。

農業経営における

とこるす種播に

「マネジメントサイクル」

農業経営者は、事業活動（生産活動や販売活動）を行う上で何らかの夢や構想を持っているはずです。

その、夢や構想を実現するためには、計画の作成が必要になります。

その作成された計画に基づき、生産や販売活動が実行されます。

その実行された結果を点検・分析し、改善を加えて次期の計画作成につなげます。

この作業を事業活動の「マネジメントサイクル」（下表）といいます。

農業経営に限らず事業活動を行う企業では、このマネジメントサイクルを取り入れています。

『管理の記録』

農業経営での計画作成は、作物や品種、生産面積、農薬や肥料の決定にかかわる「生産管理」

のこと。

いつの時期に、何人で何の作業をするのかという「作業管理」のこと。

どこに有利に販売するか、有利に資材手当てをするかという

「販売・購買管理」のこと

そして一年間取り組んだ事業活動の結果を決算書という形で收支実績を取りまとめて税務申告を行う「財務・会計管理」までを行っているはずで

これらの各管理作業は、全てが関連しています。生産管理と作業管理がうまく行かなければ収益が上がらず財務もよくなりません。

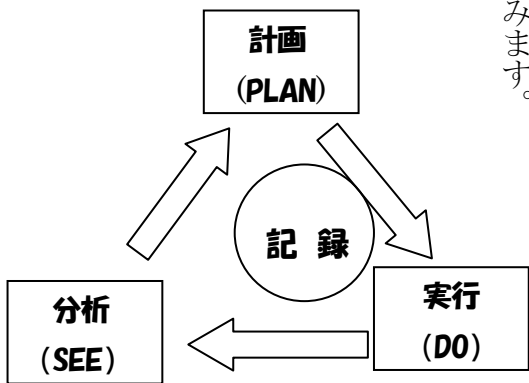
生産量が確保されなければ販売先にも迷惑がかかり、売上が減少すれば購買品の支払いにも支障が起きます。

この関連した中でもすべての管理の基礎となり、経営を継続する上で重要となるのが「管理の記録」と「財務・会計管理」

です。

しかし、ほとんどの経営者は、これらの管理について紙に書かずに頭の中で計画を立て、せっかく税務申告のために売上、経費、利益を計算しながら申告する事で終わっているのが現状です。決算書を活用して分析・検討を行い、次期の計画作成に利用すべきものです。そのためにも「記録」が重要な作業となります。

今回は記録の活用方法にふれてみます。



マネジメントサイクル

素材にこだわった起業活動



武藤芳枝さん

印西市和泉の武藤芳枝さんはJA西印旛直売所「とれたて産直館印西市店」平成十七年七月のオープンを機会に農産加工品の販売に取り組んでいます。

長年、生活改善研究会で培った技術を活かしたい、また、付加価値により米の消費拡大に結び付けたいとの思いからご飯類やもち、揚げ餅などお米の加工品を主に販売しています。赤飯のごまやささげも自家産を使用し、安心して食べられると消費者から好評を得ています。

四年目を迎え、直売所以外にも行事や会合等の注文が少しずつ増えてきました。今後は季節の惣菜や菓子類の販売もしていきたいと張り切っています。

シリーズ 「新たな担い手」

○ 青少年編

一 印旛の新規就農者

五月二〇日、農業経営体育成セミナー開講式が行われました。

このセミナーは、毎年新規就農者を対象とした研修会で三年かけて開催されるものです。

今年の研修生は、一年目の基本研修が一〇名、二年目の専門研修が二一名、三年目の総合研修が一七名です。



セミナー開講式

二 白井市 芦田貴裕さん

その中、地域のホープとして期待されている白井市芦田貴裕

さんを紹介します。



芦田貴裕さん

芦田さんは、畑160aで野菜を生産し、北総線白井駅構内で直売を行っています。そこに並ぶ野菜の種類は、いつも30品目に及び、季節の旬の野菜が大好評です。

昨年、芦田貴裕くんは、プロジェクト学習でお客様にアンケート調査を行いました。

その中では、改めてお客様のニーズを的確につかむ事、普段のお客様との会話が重要であること述べていました。

今後、経営発展が期待される農業青年です。

森林施業計画で価値ある森林を

あなたの森林はあなたの財産であり、また、地域の財産です。

あなたの森林は、水源をかん養したり、災害を防いだり、生活環境を守るために地域から期待される財産となっています。

一 森林施業計画認定制度

この森林施業計画は個人でも地域でも30ha以上の森林について、伐採や造林等の5カ年間の計画を作成し、市町村長等の認定を受ける制度です。

認定を受けた計画に基づいて伐採や造林等を実施すると補助制度や税制上の優遇措置を受けられるものです。

森林施業計画の作成や補助金等の助成措置については、印旛農林振興センター、市町村役場の森林担当にお尋ねください。

「ちば28号」の名称が「ふさこがね」で統一

千葉県の水稻の奨励品種である「ちば28号」の名称が、「ふさこがね」として統一されました。

今まで「ふさこがね」は、「ちば28号」の愛称として用いられて、生産者からも消費者からも同じ品種なのに紛らわしいとの声が聞かれていました。

これからは米袋、販売袋、種子用袋などすべての表示を「ふさこがね」とすることにしましたのでご注意ください。

「ふさこがね」が千葉県のブランド米として確立できるようにみなさんのご協力をお願いいたします。

